

第67回 市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会の展望

(資料提供 神奈川県陸上競技協会)

横浜市が4連覇へ万全な態勢

横浜市は3人の大学生がエントリーされ、高校生以来の出場となる澤野健史選手(専修大学)が力をつけ戻ってきた。10000mを29分05秒と今大会出場選手の中で最も良い記録を持ち、先の全国都道府県男子駅伝のメンバーにも選ばれている。また、昨年ごぼう抜きを演じ、優勝の立役者であった星野光汰選手(専修大学)も1年ぶりの駅伝を楽しみにしている。法政大学の松田憲彦選手は、箱根駅伝では復路のエース区間(9区)を走った。そして前回大会、高校2年生ながら5区で区間賞を獲得した稲毛悠太選手(東京実業高校)、神奈川選手権3000m障害の覇者、齋藤雄太郎選手(CREST)、ベテランの富張裕紀選手(横浜市陸協)などが顔を揃え、初出場となる宮尾佳輔選手(鶴見高校)は陸上競技の経験こそまだ浅いが、怖いもの知らずで面白い。中学生は全国中学大会、全国都道府県男子駅伝で活躍した館澤亨次選手(中山中学)、女子区間は全国に名を連ねる白鵬女子高校の松浦朝美選手、加藤美菜選手と他チームが羨むほどの布陣である。

横須賀市は昨年2位と大躍進を遂げ、大会を盛り上げてくれた。特に大学生となった小泉雄輝選手(日本体育大学)が一段と成長し、距離に対する不安もなく安定している。木浪 浩選手(武山自衛隊RC)も起伏に富んだコースを得意とし、2人がチームを引っ張る。大学生を中心とした若いチームだが練習量も豊富で、確実に襷を繋ぎ混戦になれば最後に抜け出す可能性を持っている。

藤沢市は、前回優勝候補に挙がっていたが、今回もプレス工業の選手を中心に優勝を狙えるチーム編成である。中学生の遠藤宏夢選手(滝の沢中学)はスピードがあり、競り合いにもめっぽう強い。前回は欠場した橋 明德選手(プレス工業)が戻ってきたのは心強い。ニューイヤー駅伝、全国都道府県男子駅伝に出場した皆倉一馬選手(プレス工業)、同僚の木村茂樹選手、鶴崎優太選手と4人を投入し、初優勝を目指す。

茅ヶ崎は、大黒柱の石原 洸選手(新電元工業)が最長区間の6区において2年連続で区間賞を獲得、川崎健太選手(スズキ)も健在、今回はこの2人を前半に起用し逃げ切る作戦に出ると思われる。後半の長丁場には箱根駅伝のアンカーに抜擢され、見事に走り抜いた高梨 寛隆選手(法政大学)と、しっかり練習ができていた櫻井亮太選手(国士舘大学)の配置が予想され、ダークホース的な存在である。

川崎市は中学生が強い。24年度の県中学3000mランキング第1位の橋本龍一選手(枳形中学)が先頭で来ると考えられるだけに、田代洋平選手(川崎市中体連教員クラブ)、全国都道府県男子駅伝に出場した濱野優太選手(荏田高校)、全国高校駅伝では5区を任された鈴木涼太選手(藤沢翔陵高校)の3人がどこまで上位で襷をつないでいけるか注目したい。

上記以外で注目したい選手は、平塚市の鈴木悠介選手(日本体育大学)、箱根駅伝の山下りを59分33秒と好記録を出し総合優勝に貢献、今回7区の区間新記録を狙っている。

町村の部について

各町村のベテラン勢は「かながわ駅伝」のために練習を続け、仲間を大切にジョギングを楽しみ、休日の走り込みで大会に備えている。昨年もお出場しているメンバーが多く名を連ね、今回

も大井町が一步リードしている。主将の平野泰輔選手（足柄上郡陸協）を中心に良くまとまっており、女子では丹羽七海選手（白鵬女子高校）が3000m障害の日本高校記録保持者で、全国高校駅伝でも活躍し区間賞を狙っている。

葉山町は、中学から出場しているエースの川村駿吾選手（プレス工業）の活躍が期待される。しかし、ポイントとなる区間を高校生に頼らざるを得なく、苦しい状況といえよう。

大磯町は、予定していた選手が故障で使えず頭の痛いところ、唯一の大学生である小島義之選手（國學院大学）とベテランの村本洋介選手（平塚市役所）がチームを引っ張り、昨年以上の成績でゴールできるか。

開成町の井出 収選手（足柄上郡陸協）が50歳となり、昨年同様最終区間での出場が予想される。本人が納得のいくレース、記録が出せるか、注目したい。

各区間の見所について

1区 川崎市は、昨年1年間を通してコンスタントに力を発揮した橋本龍一選手（枳形中学）の起用が予想される。横浜市の館澤亨次選手（中山中学）と藤沢市の遠藤宏夢選手（滝の沢中学）ともに3000mを8分40秒台と互角であり、この3人が速いペースで激しく競り合い、区間記録更新を目指す。

2区 各チームはエース格を起用し、勝負に出る。藤沢市は実力ある橘 明德選手（プレス工業）、横浜市は好調の澤野健史選手（専修大学）の2人が最後まで併走し、秒差での襷リレーとなるだろう。茅ヶ崎市の川崎 健太選手もこの2チームに加わると更に面白くなる。また、昨年、区間賞を獲得した大和市の五十嵐祐太選手（JR東日本）と葉山町の川村駿吾選手（プレス工業）の追い上げにも注目したい。

3区 茅ヶ崎市が石原 洸選手（新電元工業）の起用で先頭に立ち、大きく後続との差を広げる作戦に出ると思われる。ここで横浜市と藤沢市がけん制し合うと後方から好調が伝えられる横須賀市の小泉雄輝選手（日本体育大学）が加わり、3チームでトップを追いかける展開となるだろう。

4区 距離が短く8分台の勝負となると、全日本学生選手権1500mを優勝している横須賀市の望月晴佳選手（順天堂大学）と高校の後輩でもある横浜市の松浦朝美選手（白鵬女子高校）が先輩の胸を借り、気持ちに負けない走りが見られるか。区間賞争いも大井町の丹羽七海選手（白鵬女子高校）、伊勢原市の竹内あさひ選手（秦野高校）、相模原市の赤坂よもぎ選手（元石川高校）の高校生が秒差で続き誰にでもチャンスがある。

5区 茅ヶ崎市は梁瀬 功選手（山梨学院大学）、藤沢市は田中良範選手（藤沢市役所）に、横浜市と横須賀市は元気の良い高校生を当て、先頭と射程距離で繋げれば、次の区間で勝負できると考えているだろう。

6区 ここで横浜市はエースの星野光汰選手（専修大学）の起用が予想され、上り坂を苦にしない力強い走りがみられそうである。豊富な選手を抱える藤沢市が何処までねばれるか、優勝するにはここで離されるわけにはいかない。

7区 横浜市のアンカーは、松田憲彦選手（法政大学）が予想される。苦しい時代を乗り越え見事に箱根駅伝を走り、ロードにも自信を持っているため、快走に期待したい。区間賞候補は、平塚市の鈴木悠介選手（日本体育大学）であり、好記録を期待している。